

受賞名：内閣総理大臣賞

タイトル：おまわりさん、眠れる夜をありがとう

氏名：リュベンソン 英真

小学校名：埼玉県 入間市立高倉小学校 六年

一月の寒い日、深夜一時ごろの話です。どすん、ばたん！と庭で大きな音がして目が覚めました。大きなものが落ちるような、そして倒れるような音で、ぐっすり寝ていた私や家族は飛び起きました。そんな時間に誰かが何かをするなんて考えられない、普通じゃないことが起きたのだと思いました。とにかく怖くて、私は布団の中で震えていました。外をのぞいて見た家族も一体、何が起きたのか暗い外の様子はよく分からなかったようです。

翌日、外の様子を見て驚きました。庭先に置いてあった自転車が倒され、植物も荒らされ、置いてあるものがなぎ倒されていたのです。あの音はこれだったんだ。と、私は怒りで腹だたい気持ちと納得するような複雑な感情でながめていました。

その様子を見て、両親が警察に連絡すると、すぐに三人のおまわりさんがパトカーに乗って来てくれました。男性のおまわりさんが二名、女性のおまわりさんが一名、心配そうにパトカーから降りてくれたのを覚えています。

警察に連絡をする事や、助けを求めることはどんな理由でもなぜか緊張するものだと母は言っていました。分かる気がしました。自分や市民を守る装備や制服がそう思わせるのかもしれませんが、でも、それこそが「おまわりさん」だと思います。良い意味で周りへ緊張感を与えることで犯罪を抑止したり、何かあれば守ってくれるというメッセージも私は感じます。そして、女性のおまわりさんがいた事でなんとなく少し緊張感がとけました。女性の視点で怖かった私たちの気持ちを理解してくれそうな気がしたからです。

そんなおまわりさんたちは、夜中、我が家に起きたこと、聞いた音、思い当たること、感じたこと、壊されたもの、とにかく色々な事を聞いてくれました。落ち着いて順番通りに整理して話す事で、母も冷静に説明できたと言っていました。荒らされた庭の写真を撮り、おまわりさんの経験や推測で「こんなことが起きたのではないか」と教えてくれました。実際、近所では民家の庭先に不審者が侵入するという事が多く起きていたそうです。防犯のアイデアや心構えも教えてもらい、パトロールもして下さるとのことでした。

うちではすぐに防犯のためにカメラを設置しました。それでも、なんとなく眠れない、眠りが浅い日が続いてしまいました。怖い記憶はなかなか消えません。ある日、あの怖かった夜中一時頃と同じ時間帯に小さく「カタン」と音が聞こえた時がありました。翌朝、母に伝えると、寒くて暗い深夜におまわりさんがパトロールに来てくれて、メモをポストに残してくれているのだと知りました。防犯カメラの映像に何日も時間を変えたりしながら、周りを注意深くパトロールして下さるおまわりさんの姿が映っていました。

この日から私は、ぐっすり眠れています。